

鹿児島県いちき串木野市

関係人口と歩む

冠嶽芸術文化村構想推進事業



総務省 関係人口連続セミナー2020 2020.12.17(木)



実施地域の概要

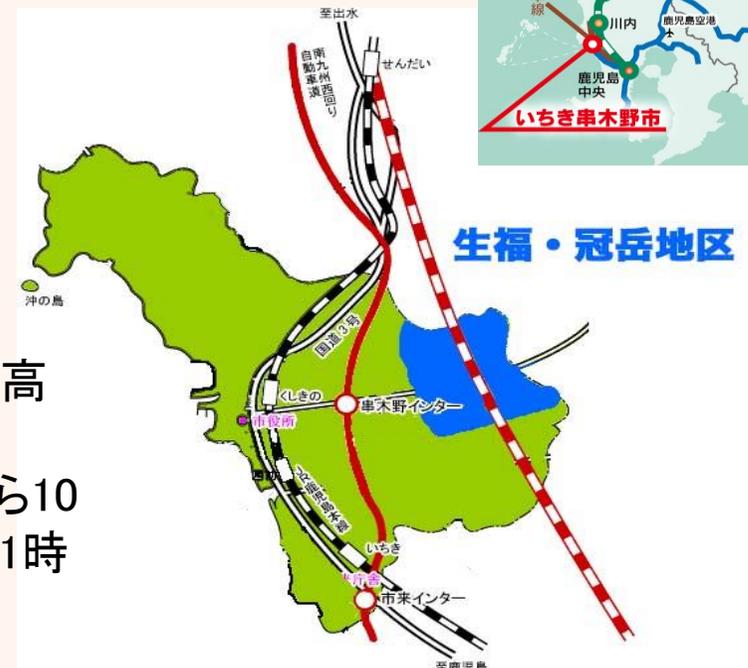
いちき串木野市

- 人口約27000人
- 広さ 80平方km
- 主力産業: 焼酎・さつま揚げ・ハム製品など飲食料品製造業、遠洋まぐろ延縄漁業
- アクセス 鹿児島中央駅からJR35分。
- 空港から車で1時間20分



生福地区・冠岳地区(生冠地区)

- 市の東部にある霊峰冠嶽の山麓に位置。
- 人口約1700人。(冠岳地区は人口200人。高齢化率48%)
- 南九州西回り自動車道串木野インターから10～15分程度の距離。県都鹿児島市からも1時間で来られる。







特産品サワーポメロ



徐福花冠祭



紅葉とお寺



冠嶽神社参道



望嶽亭と水鏡



観光梅園・・・日曜日だが誰もいない

課題

慢性的なマンパワー不足
(基礎的な地域活動だけで手いっぱい)



- 地域資源活用の取り組みが不十分
(地域ブランディングの衰退)
- 実施主体の形成

冠嶽芸術文化村構想



平成30年度策定

実施主体「えんたく」の形成

中間支援組織の「えんたく」が地域と関係人口を繋ぐ



- ・芸術・文化の切り口から地域資源のプロダクト化を図る
- ・プロダクト化には外部人材のアイデアと人手が必要
- ・関係人口に地域を認めてもらえると地域の喜びに

えんたくの取組

- 平成31年度 えんたく創設(13人)

地域住民5人、関係人口4人、元地域おこし協力隊1人、行政3人

取組・・・地域資源の確認

地域映画の作り方(トークセッション)

冠岳もみじ狩り散策ツアー

冠岳山市物産展「えんたく」出店

フリーペーパー『ALUHI』冠岳・生福地区特集号 発行

- 令和2年度 地域資源活用への取組
地域コミュニティの強化

冠嶽芸術文化村構想推進事業(R2～R4年度)

えんたくの取組

「住民と関係人口の興味をひきつける」

- かんぷくシネマ ～ 8ミリフィルムによる地域映画制作
- 8ミリフィルムによる地域映画制作を住民参加型で実施し、地域活動のベースとなる地域のコミュニティ強化を図る。
- 完成作品は地域のプロモーション映像としても活用予定。



えんたくの取組 「住民と関係人口の興味をひきつける」

● かんぷくシネマ ～ 8ミリフィルムによる地域映画制作

8ミリフィルム観賞会

8mmCafe

8ミリフィルムに残された地域の記録に
ふれてみませんか？
ふるさとの貴重な歴史を、
珈琲をのみながら一緒に観賞しましょう。

2020.9.19 ⊕
17:00～18:30
@まちなかサロン
(鹿儿岛県 いちき串木野市旭 76)
参加費：500円
定員：10名程度

会場へお越しの際はアルコール消毒やマスク着用
など、新型コロナウイルス感染拡大予防にご協力
をお願いいたします

みたい8mmフィルム（シングル）が
ご自宅にありましたらお持ちください

申込み・問合せ entaku2019@gmail.com
090-7381-5222 (えんたく・大重)



えんたくの取組 「稼ぐコンテンツを造る」

● 食資源活用事業

黒ニンニクや仙人米、薬草など「食」を中心とした商品開発を実施。地域が自走していくための事業収入を確立する。

薬膳弁当の試作販売（2019.11月）

- ・地域の恒例行事となっている冠岳山市物産展に「えんたく」として出店。
- ・地域素材を用いた薬膳弁当（30食）と薬膳スープ（50食）を販売。
- ・販売した1200円の弁当は全て完売。



えんたくの取組 「稼ぐコンテンツを造る」

● 食資源活用事業

ツアーのお弁当として地域が薬膳弁当を制作販売



ぐるぐる紅葉バス（2020.11～12月）

- ・観光課が企画した周遊観光バスのお弁当として採用
- ・作製は食生活改善グループが指導を受けて制作。
- ・弁当は予約制で土日祝のみ販売。
- ・1食1350円で100食完売。利益は約7万円。



えんたくの取組 「稼ぐコンテンツを造る」

● ツーリズム事業

冠嶽の山歩きや紅葉等観光資源を事業化。

ぐるぐる紅葉バス（2020・11～12月）

- ・冠岳地区を中心に、市内の観光地をバスで巡るツアー
- ・実施は総合観光案内所（NPO）



えんたくの取組 「活動の場を造る」

● よりみち会議

地域資源・地域課題 × やりたいこと

- R2年度からの取組
- 令和3年3月で閉校となる冠岳小学校活用を含む地域の将来像を考える。
- 考えるだけでなく、参加者は企画を考え、小さく一歩目を踏み出す。
- えんたくはその活動を後押しする。



えんたくの取組 「活動の場を造る」

● よりみち会議

南日本新聞 令和2年9月18日

薩摩川内総局・荒川卓也

記者の目

いちき串木野市の冠岳小学校は本年度で閉校する。全校児童7人のうち5人は、教員の子どもと校区外から通う特認生で、来年度から冠岳地区を離れる。

地域では「過疎化が進む中、さらに活気が薄れないか」と心配の声が上がる。農作業体験など取材のたびに学校が地域に与える元気を実感してきた。それだけに、住民の気持ちが見える。

市は閉校後の地域活性化対策として、都市部の住民との交流促進を目指す「冠嶽芸術文化村構想」を掲げる。実践の中心は、野外イベントを手掛ける鹿児島市の企業や元地域おこし協力隊員の5人でつくる「創発コミュニティ・えんたく」だ。

元気の源

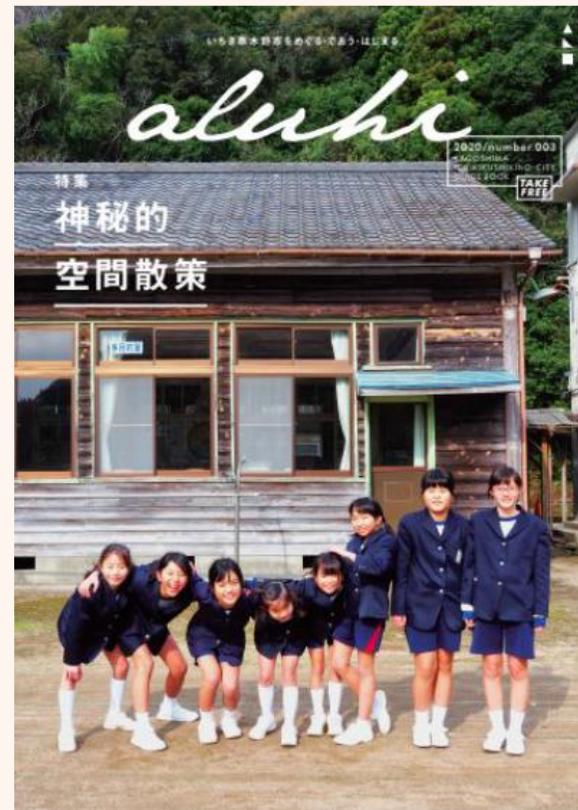
まずは校区を知ってもらおうと、記録映画製作に児童と取り組む。校舎の活用策の検討も任されている。8月末にはさつま町と南九州市からユニークな廃校舎活用を進める団体の関係者を招き、勉強会を開いた。

驚いたのは参加者40人のうち、校区外の市民が約3割を占めたことだ。画家の女性は「芸術で力になりたい」、学童施設を運営する男性は「子どもたちの遊び場となる施設を」。さまざま思いや期待を抱いていた。冠岳の将来に気を掛けているのは地元やえんたくだけではない。そう思えて心強かった。市民全体を巻き込んでアイデアを出し合う作業が、元気の源になる。

えんたくの取組

- 令和2年2月
フリーペーパー『ALUHI』冠岳・生福地区特集号 発行

- 編集・発行：えんたく
- 協力者（寄稿者）：写真家（東京・いちき串木野市）、料理研究家（東京）、ミュージシャン（鹿児島市）、花屋（いちき串木野市）、デザイナー（東京）、イラストレーター（鹿児島市）、掲載店舗・生福・冠岳地域住民など
- 内容：いちき串木野市を伝えるフリーマガジン『ALUHI』の3号目となる2019年度は生福・冠岳エリア特集として発行。



現在までの成果

1. 関係人口らしき人は出てきている

※R1の関係人口創出拡大事業モデル事業では78名を創出！

- ✓ 薬膳料理家
- ✓ フォトグラファー
- ✓ 地域映画監督
- ✓ アウトドア同好家
- ✓ 古着屋さん

2. えんたくの継続的な活動に必要となる「稼ぐ」事業において、今後の手ごたえを感じている。

- ✓ 地域の女性達による薬膳弁当(えんたくから地域の人たちの手へ)
- ✓ 地域住民でやる気や特技を持つ人たちが顕在化

3. 重層的な取り組みが生まれてきている

- ✓ くるくる紅葉バス(周遊観光バス)
- ✓ 学校活用の動き

課題

1. 関係性の深化はこれから

- ✓ 冠嶽芸術文化村構想の実現に必要な様々なソフト事業が、引き続き関わりしるを作り出す。
- ✓ 外部とのネットワークを持つ「えんたく」をハブに、クリエイター（関係人口）が地域に関わり続ける状況を継続していく。

2. 「えんたく」の活動拠点が必要＝関係人口の窓口

- ✓ 経済活動・情報発信
- ✓ 対外的な安心感（関係人口のアクセス・住民に対しても）

3. 「えんたく」の体制強化

- ✓ 関係人口中心の組織なのでマンパワー不足は否めない
- ✓ 法人化

おわりに

1. 地域振興には関係人口のスキルや存在は有効(地域の人たちが評価される)
2. そのためには外部とのネットワークを持つ人たちの存在が必要
3. 関係人口が活躍できる場を用意する必要がある(よりみち会議)
4. 関係人口に選ばれる地域になることが大事



関係人口の力を取り込みつつ、地域の価値を文化芸術の力で高めていくことで、住民の満足度や幸福度を上げ、持続可能な魅力ある地域を作っていく。